

★「高収入だから医師になりたい」という青年に、ソクラテスなら何と云うだろうか？

ソクラテスにとっては「無知の知」を自覚したうえで真の知を愛し求める態度こそ正しい生き方だから、「高収入だから医師になろうというのは恥ずかしい生き方だと思わないか」などと言って、青年と話し合おうとする（質問を重ねる）だろう。

※もちろん世の中には、ソクラテスの考え方（生き方）を笑う人もいるだろう。「人生なんて、つべこべ言わず金を儲けたほうが勝ちだ。ソクラテスは負け惜しみを言っているに過ぎない」と。ひょっとすると、そっちのほうが私たちの社会の「常識」なのかも知れない。そうだとするとソクラテスは「常識知らずのバカ」ということになるのか？

※自分の生き方を選択する際、この考え方の違いを認識しておくことが重要である。将来、就職先や結婚相手を選んだり子育てをするときにも影響する。自分は今どちらの考え方（生き方）をしているか自覚しているか？ 今の自分の生き方が正しい生き方だという自信はあるか？ 自分を対象化・客体化して吟味しているか？

★ソクラテスは、なぜ脱獄を拒否し、不正な判決に従ったのだろうか？

脱獄したのでは「ただ生きる」だけになり「良く生きる」ことにならないから（それまでの自分自身の主張と矛盾するから）。脱獄は判決（＝法）に背く不正な行為である。ソクラテスは、「いくら不正な判決（＝法）であっても、国法に従うことが良く生きることだ」と考えていたのである（不正に不正で応じない）。

※なお、このソクラテスの態度は、「悪法も法なり」という^{ほうげん}法諺の源となっている。

★「決まり（ルール／法）は守らなければならない」という考え方は正しいか？

「法」をめぐっては、上記の「悪法も法なり」という考え方と、逆に「悪法は法ではない」という2つの正反対の考え方がある。

「決まり（ルール）は守らなければならない」という考え方は、「悪法も法なり」という考え方に近く、「あらかじめ定められた手続きに従って制定された法は、その内容の是非にかかわらず法として有効である」というナチス時代の考え方（法治主義）につながる。

これに対して、「悪法は法ではない」という考え方は、「法は、市民の自由と権利を守るために存在するのであるから、自由と権利を侵害する法は無効である（＝法は、手続き面だけでなく内容面においても正しく制定されたものでなければならない）」という考え方（法の支配）につながる。